修士論文（要旨）
2020 年 1 月

大学生の専門家への援助要請において自律性が自己スティグマと援助要請態度に及ぼす影響

指導　井上　直子　教授

心理学研究科
臨床心理学専攻
218J4006
佐藤　匠

Master's Thesis(Abstract)
January 2020

The Influence of Autonomy on Self-Stigma and Help-Seeking Attitudes in University Students' Requests for Professional Help

Takumi　Sato
218J4006
Master's Program in Clinical Psychology
Graduate School of Psychology
J. F. Oberlin University
Thesis Supervisor: Naoko Inoue

目次

第 1 章　問題 1
1.1　大学生におけるメンタルヘルス 1
1.2　援助要請態度 1
1.3　自己スティグマ 2
1.4　自律性欲求 3
1.5　援助要請研究における性差 4
第 2 章　目的と意義 4
第 3 章　方法 4
3.1　調査対象者 5
3.2　調査時期 5
3.3　調査方法 5
3.4　調査内容 5
3.5　仮説 6
3.6　分析方法 7
第 4 章　結果 7
4.1　分析対象者の特性について 7
4.2　性差および学年差の検討 7
4.3　男女別に見た各尺度間の相関 8
4.4　男女別に見た各尺度間の影響 9
第 5 章　考察 11
5.1　各尺度における性差および学年差の考察 11
5.2　各尺度間の関連についての考察 14
5.3　自律性欲求が自己スティグマを介して援助要請態度に与える影響 15
5.4　総合考察 18
第 6 章　まとめと本研究の課題 19
謝辞 20
引用文献 I

資料

付録 1　調査協力依頼書（教員宛）
付録 2　本調査で用いた調査用紙

第1章　問題

他者に助けを求める行為は援助要請と呼ばれ，援助要請態度，援助要請意図，援助要請行動の 3 つの指標を用いて研究が行われてきた。その中で援助要請態度は援助要請にかかわるどのような段階であっても人が持っているものであるということが言える（本田, 2015）。専門家への相談経験が援助要請態度に対して大きな影響を与えると考えられるため（永井・小池, 2013），その要因を統制し，それに加えて専門家への相談経験がない人の援助要請態度を肯定的なものにする研究が重要であると考えられる。援助要請には阻害要因があり，援助要請態度を抑制する要因として自己スティグマがあげられる。また，自律性欲求の 2 側面のうち自己決定欲求は自尊心を高めることで，自己スティグマを抑制するする可能性があり（Vogel, Wade & Haake, 2006；佐藤, 2012），独立欲求は自己スティグマを抑制する可能性があると考えられる（外山，2003）。そのため，自律性欲求の各側面は援助要請や自己スティグマに関連する可能性があると考えられる。

第2章　目的と意義

本研究の目的は，大学生のメンタルヘルスへの貢献を目指し，専門的な心理的支援への援助要請をテーマとし，その根底にある援助要請態度と，これを阻害する要因とされる自己スティグマとに対して自律性が与える影響を検討することである。

大学生の専門家への心理的援助要請において，どのような自律性の側面が援助要請態度や自己スティグマにどのような影響を与えるかが明らかになることによって，援助要請をめぐる自己スティグマを変化させて必要な心理的援助に繋げるための方策を具体化する一助になると考えている。

第3章　方法

3.1 調査対象者および分析方法

東京都内の私立大学に在籍する学生のうちメンタルヘルスの専門家に相談したことがない 18～24 歳の男女を対象に調査を行った。

3.2 調査内容

調査用紙の構成は以下の通りである。

(1)表紙

質問紙調査における留意点および質問紙の回答方法，倫理的配慮を記載した。

(2)専門的援助要請態度尺度（10 項目）

Fischer and Farina（1995）の「the Attitudes Toward Seeking Professional Psychological Help：A Shortened Form；ATSPPH-SF」を Ina and Morita（2015）が邦訳したものを使用した。

(3)自己スティグマ尺度（10 項目）

Vogel et al.(2006)の「the Self-Stigma of Seeking Help Scale」を Ina and Morita(2015)が邦訳したものを使用した。

(4)自律性欲求尺度（24 項目）

安藤（2007）による「自律性欲求尺度」を使用した。この尺度は，自己決定欲求（14 項目），独立欲求（10 項目）の 2 因子からなる。

(5)対象者に関する項目(年齢，性別,学年)

年齢，性別，学年の記入を求めた。

3.3 仮説

本研究では，これまで論じてきた問題と目的に基づき，以下の仮説を立て，これらを検討する。

(1) 援助要請態度，自己スティグマ，独立欲求には性差がある。援助要請態度は，男性よりも女性の方が有意に高く，自己スティグマと独立欲求は，女性よりも男性の方が有意に高い。

(2) 自律性における自己決定欲求は，自己スティグマを抑制する。そして，自己スティグマは援助要請態度を抑制する。

(3) 自律性における独立欲求は，自己スティグマを促進する。そして，自己スティグマは援助要請態度を抑制する。

3.4 分析方法

分析には SPSSver25.0, Microsoft Excel 2010, AMOSver25.0 を使用し，各尺度について性別と学年を独立変数とする 2 要因分散分析を行ったのち，各尺度について相関分析を行う。相関分析の結果，自己決定欲求，独立欲求，自己スティグマ，援助要請態度に関連が見られた場合，パス解析を行う。

第4章　結果と考察

308 名（男性 105 名，女性 203 名）を対象に分析を行った。平均年齢は，19. 83（SD=1. 13）歳であった。2 要因分散の結果，性別の主効果のみが見られ，「援助要請態度」では女性の方が（$F(1,300)=4.785, p<.05$），「独立欲求」では男性の方が有意に高い得点を示した（$F(1,300)=6.767, p<.05$）。したがって，2 要因分散分析の結果，仮説(1)は支持されなかった。相関分析の結果，「自己スティグマ」と「自己決定欲求」との間に関して，男性には弱い負の相関が示されたが（$r=-.333$，$p<.01$），女性にはほとんど相関は示されなかった（$r=-.198$，$p<.01$）。また，「自己決定欲求」と「独立欲求」との間に関しては，男性は弱い正の相関（$r=.378$，$p<.01$），女性は中程度の正の相関が示された（$r=.538$，$p<.01$）。「自己スティグマ」と「援助要請態度」との間には女性のみ弱い負の相関が示された（$r=-.307$，$p<.01$）。相関分析を踏まえたパス解析の結果，男女では要因間の異なる影響が示され，自己決定欲求から自己スティグマへ正の影響が男女ともに見られたが（$\beta=-.32, p<.001$；$\beta=-.21, p<.01$），自己スティグマから援助要請態度への負の影響は女性のみに見られた（$\beta=-.23, p<.001$）。したがって，仮説(2)に関しては，女性は支持されたが、男性は支持されなかった。仮説(3)は男女ともに支持されなかった。

以上から，男性にとって，自己スティグマは援助要請態度の阻害要因にはならないが，女性にとっては，阻害要因の一つであることが示唆された。このことから，援助要請態度を肯定的なものにする方策を考えるにあたっては男女の違いを考慮する必要があると言えよう。そのため，今後の援助要請研究においても男女の違いを考慮したうえで研究を積み重ねていくことが重要であると考えられる。

引用文献

Ajzen, I. (1991). The theory of planned behavior. Organizational behavior and human decision processes, 50(2), 179-211.

Andersen, R. M. (1995). Revisiting the behavioral model and access to medical care: does it matter?. Journal of health and social behavior, 1-10.

安藤 史高 (2003). 自律性欲求とクリティカルシンキング志向性との関連 こころとことば (2), 51-59.

安藤 史高 (2007). 保育系短期大学生の就職動機づけに対して自律性欲求・進路変更が及ぼす影響 一宮女子短期大学紀要, 46, 71-78.

DePaulo, B. M. (1983). Perspectives on help-seeking. In B. M. DePaulo, A. Nadler, & J. D. Fisher (Eds.) , New directions in helping. Vol. 2 Help-seeking (pp. 3 -12) . New York: Academic Press.

Deci, E. L., Vallerand, R. J., Pelletier, L. G., & Ryan, R. M. (1991). Motivation and education: The self-determination perspective. Educational psychologist, 26(3-4), 325-346.

Fischer, E. H., & Farina, A. (1995). Attitudes toward seeking professional psychologial help: A shortened form and considerations for research. Journal of College Student Development, 36(4), 368-373.

Fischer, E. H., & Turner, J. I. (1970). Orientations to seeking professional help: Development and research utility of an attitude scale. Journal of consulting and clinical psychology, 35, 79-90.

Hofmann, D. A., Lei, Z., & Grant, A. M. (2009). Seeking help in the shadow of doubt: the sensemaking processes underlying how nurses decide whom to ask for advice. Journal of Applied Psychology, 94(5), 1261-1274.

本田 真大 (2015). 援助要請のカウンセリング「助けて」と言えない子どもと親への援助 金子書房：東京 p6-12.

本田 真大・新井 邦二郎・石隈 利紀 (2011). 中学生の友人,教師,家族に対する被援助志向性尺度の作成 カウンセリング研究, 44, 254-263.

Ina, M. & Morita, M. (2015). Japanese university students' stigma and attitudes toward seeking professional psychological help. Online Journal of Japanese Clinical Psychology, 2, 10-18.

国立大学保健管理施設協議会 (2018). 学生の健康白書 2015, p261-268.

Komiya, N., Good, G. E., & Sherrod, N. B. (2000). Emotional openness as a predictor of college students' attitudes toward seeking psychological help. Journal of counseling psychology, 47(1), 138.

前川 由未子・金井 篤子 (2016). メンタルヘルス専門家への援助要請に関する研究の動向:援助要請態度,意図,行動の観点から 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要心理発達科学, 63, 57-72.

宮仕 聖子 (2010). 心理的援助要請態度を抑制する要因についての検討--悩みの深刻度、自己スティグマとの関連から 日本女子大学大学院人間社会研究科紀要 (16),

153-172.
三宅 典恵・岡本 百合 (2015). 大学生のメンタルヘルス(<特集>現代の若者のメンタルヘルス) 心身医学 55(12), 1360-1366.
永井 智 (2017). 援助要請スタイルと愛着および適切な援助要請行動の関連の検討 立正大学心理学研究所紀要 (15), 25-31.
丹羽 智美 (2010). 青年期における親への愛着と自律性の関係:―授業場面における検討― 日本心理学会大会発表論文集 74(0), 2PM134-2PM134.
Ryan, R. M., & Deci, E. L. (2000). Self-determination theory and the facilitation of intrinsic motivation, social development, and well-being. American psychologist, 55(1), 68-78.
佐々木 悠人・水野 治久・永井 智 (2017). 大学生の援助要請を阻害する要因の検討:スティグマが援助要請態度に与える影響の検討 大阪教育大学紀要.第 4 部門, 教育科学 65(2), 259-270.
佐藤 美佳 (2012). 自己決定理論の視点に基づいた看護学生の自律性欲求と自尊感情、学習動機づけとの関連―教育課程・学年別比較― 八戸短期大学研究紀要 (35), 53-71.
竹澤 みどり・小玉 正博 (2004). 青年期後期における依存性の適応的観点からの検討 教育心理学研究 52(3), 310-319.
外山 美樹 (2003). 自己認知と相互独立 : 相互協調的自己観ならびに自己の側面の重要性との関係 筑波大学心理学研究(25), 135-140.
梅垣 佑介 (2017). 心理的問題に関する援助要請行動と援助要請態度・意図の関連 心理学研究, 88(2), 191-196.
Vogel, D. L., Wade, N. G., & Haake, S. (2006). Measuring the self-stigma associated with seeking psychological help. Journal of counseling psychology, 53(3), 325-337.
Vogel, D. L., Wade, N. G., & Hackler, A. H. (2007). Perceived public stigma and the willingness to seek counseling: The mediating roles of self-stigma and attitudes toward counseling. Journal of Counseling Psychology, 54(1), 40-50.
吉井 初美 (2016). 精神障害者のセルフスティグマ低減を目的とした介入研究課題 : レビュー 日本精神保健看護学会誌 25(1), 91-98.